

市議会に関するアンケート結果の検証等について（平成26年度調査）

【全体的な考察】

アンケート結果から読み取れるポイント

- ・ 前回調査同様に市議会への関心は約7割の方が持っている。（問3）
- ・ 一方で、大多数の方が会議を見ていない。（問4）



- ・ 市議会の活動に関心はあるが、見に行く機会がない。
- ・ 何について議論しているのかが興味はあるが、日程等がわからない。
- ・ 市議会が身近に感じられていない。

【本市議会における課題】

- ・ 市議会に対する関心は、前回調査と比べ変化が見られなかった。
- ・ 40代以下の比較的若い市民に関心が無い方が増加している。
- ・ 広報広聴機能の強化
- ・ 議員個人としては当たり前であるが、市議会として市民にアプローチする必要性。
- ・ 議員の活動が見えていない。
- ・ 議員個々が市民の中に入り、対話していくことにより興味を持ってもらう。



(1) 議会活動に関わるもの



(2) 議員活動に関わるもの

【課題に対する解決策】

(1) 議会活動に関わるもの

解決の方向性の検証	広報広聴活動（問5～問9）	賛否の認知度（問10）	請願陳情の理解状況（問11）	市議会に対する評価（問12・問13）	議会基本条例の認知度（問14）	議会報告会（問15～問17）
アンケート結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市議会だよりは6割以上の方が読んでいる。 ・ ホームページ、本会議インターネット中継、J:COM小田原での本会議録画放送については知らない・見たことない方が大変多い。 ・ 積極的に取り組んで欲しい情報発信の方法としては、紙媒体が望まれている傾向にあるが、若い世代にはツイッターやフェイスブックを望む声が多い。 ・ 広報広聴活動については、全体的に4年前の前回調査との大幅な変化は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知っていると答えた方が3割その内市議会だよりで見たことがあると答えた方が9割。 ・ 30代以下の世代は8割以上が知らない。 ・ 市議会だよりを通じて周知が図られてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4割の方が知っているという回答。 ・ 10代から30代で知らないという回答の方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「政策提言を行う」「意見・要望を聴く機会を設ける」「相談相手となる」については前回調査と同様に多い。 ・ 市民の期待するものが多い。 ・ 市議会に意見が反映されているかでは、約8割が思わない、わからないと回答している。 ・ 市民の声が議会に反映されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 約8割の方には認知されていない。 ・ 知っている・聞いたことがあるが合わせて2割であり、短期間で比較的周知されたといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8割が知らないという回答。 ・ 知っているという回答した1割のうち市議会だよりから知るは9割。 ・ 報告内容としては「身近な地域の課題」「市全体の課題」が望まれている。 ・ 開催状況についてはわからないが7割である。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報機能の更なる充実。 ・ 若い世代においては、紙媒体もホームページも見えていない傾向にある。 ・ 本会議インターネット中継の周知が不十分である。投資効果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い世代に周知が図られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書式や手続きの方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会が市民によく理解されていないことから、議会に対する市民の信頼が少ない。 ・ 市民の要望を的確に把握し、議論に反映する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知の不足 ・ 市民の視点に立った報告会になるように研究すべき ・ 議論が十分でない。
課題に対する解決策例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市議会だよりの紙面内容の工夫・充実および増刊 ・ 会議録等の速やかな情報公開 ・ 議論の場が見たい時に見られるインターネット環境の整備 ・ 市の広報紙やタウン誌を活用し積極的な情報発信 ・ 再質問以降のケーブルテレビ放映 ・ ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も賛否の公表を継続的に実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の広報紙等に請願・陳情の内容を掲載 ・ 手続きの簡略化 ・ イベントのブースで展示等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の利益を守るという立場に立って市政をチェックする ・ 議員が市民の声に寄り添い、市民のために働いていく必要性 ・ 広報広聴機能の強化 ・ 市民の要望を記事に掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市議会だよりに周知をしていく。 ・ 検証を行いながら、議会報告会などで継続して周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会を重ねていくこと。 ・ テーマの選択と報告内容の吟味 ・ 回数・場所は議論すべき ・ 慎重に検討を重ねて実施すべき。 ・ 地域別に開催する。 ・ 懇談会として開催する。

(2) 議員活動に関わるもの

- 議員個人の資質向上が求められる。
- 市民に寄り添い、真摯に耳をかたむける必要がある。
- 意見要望等を的確に把握し、政策提言につなげる。